

## 特別支援教育部会

**研究主題** 一人一人の個性を生かしながら、社会適応能力を高めるための自立活動の在り方  
～教科指導における自立活動の在り方～

### 1 主題について

今年度は、昨年度の研究を継続するということから、昨年度と同じ主題を設定した。昨年度は、自立活動の時間に焦点をあてて研究を進めたが、自立活動の指導は、各教科を含めた教育活動全体で行われていることもあり、今年度は教科指導における自立活動の在り方を研究することにした。

### 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月8日	第2回総合研究会 授業研究会（川口小学校）

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 平成24年11月8日（木）
- ・会 場 川口小学校
- ・単元名 算数合同学習 「川口小学校をグラフで表してみよう」
- ・授業者 村松 和子 納谷 宣直

#### ① 授業者から

- ・児童の状態がいつも様々なので、実態把握が十分ではなく見取りが甘かった。
- ・教材が多すぎて、次の資料を準備するのに追われ、児童に注目させる時間が少なかった。
- ・漢字が苦手な子のために、カードにふりがなをふるなどの支援があればよかった。
- ・K君へのフォローが遅れたが、一度失敗してもめげることなく最後まで頑張れた。

#### ② 協 議

- ・席の配置が有効的で、4人が落ち着いた環境の中で活動に取り組んでいた。
- ・教師の自信につながる声かけがよかった。教師と子どものコミュニケーションが良かった。
- ・活動の際に、ずれないようにセロテープで押さえてあげるなど具体的な支援がよかった。
- ・本時は算数科のめあてにし、自立活動のめあては単元を通してあればよかったのではないかな。
- ・児童が活躍できる場の設定。そのことで、教師の指示や言葉が減り、主体的な活動が期待できるのではないかな。児童が失敗を経験したり、児童同士の関わりを強めたりしながら、自分たちで試行錯誤をしながらグラフを作ってみてはどうだったろうか。
- ・早くできた子には、別の活動を与えていたが先生役をやらせてもいいかもしれない。
- ・児童は、多くの先生方に囲まれながらよく頑張っていた。心的ストレスを与えないようにVTRで撮影し、外で参観者が観るという方法もある。

## (2) テーマ研究（授業風景・協議の様子）



【4人の自立活動のめあて確認】



【帯グラフを作成する児童】



【ワークショップ型協議】

## (3) 指導助言（村松 勝信 指導主事）

- ・算数科の中に自立活動を含めた内容だった。算数科の手立てはたくさんあった。一人一人の自立活動の視点の支援を、本時のどの部分でやるか明確にしておくことと指導場面に生かせるのではないかな。
- ・言葉は消えてしまうが、掲示物は残る。何を残して何を削るか。また、全面にあればよいもの、側面にあればよいものなど視覚情報の整理をすると効果的である。
- ・児童への見通しのもたせ方を考えてほしい。どの場面でそれを提示したら効果があるか。手順は活動の前がよい。活動に入ってからだと難しい。導入を短く、イラストや写真、文字の量を調節し、一目でわかる振り返りの方法もある。
- ・自閉的傾向にある子は単位換算が困難である。答えを教えるのではなく、何をヒントにできるのか、日々観察することが大切である。
- ・本時は活動的な授業であった。五感を使って強く感じ取らせたい。教師がそのような仕掛けを意図的にしていくことが大切である。
- ・その場面で自分の活動が正確にできたか、直に確かめられる手立てがあれば、適切な自己評価につながる。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

- ・学習の流れに沿ったよく考えられたシート、電卓など一人学びのできる環境が整っていた。
- ・言葉の式の他に、○△□など記号で表した式もあり視覚に訴えるものでよかった。
- ・個別の目標があり、活動後にそれぞれが授業の振り返りをし、頑張りを発表できた。
- ・計算の手順、大きな帯グラフ、 $1\text{cm} = 1\%$ など児童が考えやすい手立てがあった。
- ・分かりやすい役割分担であった。（色が担当を表していた）
- ・4人で分担一つの帯グラフを完成させる活動だったが、分担が協力につながった。
- ・全員が小数第2位まで求め、四捨五入できていた。身につけさせたい技能が明確だった。

## (2) 課題

- ・集団のよさを確認する場の設定。話し合うときは向かい合うなどルールがあればよい。
- ・前時とイメージの違う活動をするときの意識付けの工夫。
- ・自立のためのキーワードあればよかったのではないかな。
- ・一斉の中でTTの在り方。このような場面ではこのような支援形態といった型のようなものはできないものかな。